

題材「Word Wolf」

1 本時の学習計画

(1) 学習のねらい

「Go Fish!」で英語を話しながら海外のトランプに興味を持った子どもたちが、教師やALT、実習生が「Word Wolf」をする様子を見ることを通して、英語や非言語情報を駆使しながらコミュニケーションをとる楽しさに気づき、既習の英単語や英語表現、ジェスチャーや絵などの非言語情報を活用しながらコミュニケーションをとることに慣れ親しむ。

(2) 本時の学習材

「Word Wolf」を行う教師やALT、実習生の様子

○英語を話さなければいけないというイメージから、外国語活動に対して苦手意識を持ったり、コミュニケーションをとる時間に萎縮してしまったりするだろう。しかし、英語表現に限らず、ジェスチャーなど非言語情報を使ったコミュニケーションができることを知った子どもたちは、英語表現や非言語情報を使ったコミュニケーションをしてみたいと思うだろう。このような意識に基づいて、本学習材を提示する。

○本時の「Word Wolf」の価値として、既習の英語表現に限らず、ジェスチャーなどの非言語情報の活用を許容することがある。このようにすることで、英語を話すことに対して抵抗がある子どもたちも、非言語情報で意思疎通を図る楽しさを感じるとともに、既習の英単語や英語表現を用いてコミュニケーションを図るようになることを期待している。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握	1 始めのあいさつをし、人狼ゲームに対する話題を振る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人狼ゲームだ！</li> <li>・アメリカでは「Mafia」っていうんだね。</li> <li>・今日は人狼ゲームするのか。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語が理解できない子どものために、Power point で視覚情報を与える。</li> </ul>
	2 「Simon says」で物の色や形、感触などの表現を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違えて動いちゃった。</li> <li>・「round」って言ったときに前に丸い形が出るから丸いものを触ればいいんだ。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Simon says」では、学習課題で活用できそうな形容詞に関連したお題を出す。新しく学習する形容詞は視覚情報とともに提示する。</li> </ul>
展開	3 「Word Wolf」を教師がプレイしているところを見たとえで、ルールを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～先生だけカードが違う。</li> <li>・自分が持ってるカードが班の人と同じかどうか話しながら考えるゲームか。</li> <li>・伝え過ぎると自分だけ違う時にすぐばれちゃう。</li> </ul>	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習材</p> <p>「Word Wolf」をプレイする教師の様子</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を見せるときはなるべく簡単な単語や表現、ジェスチャーを使う。</li> <li>・制限時間は1ゲーム2分とする。</li> </ul>
	4 「Word Wolf」を実際にプレイする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～って言わなければよかった。</li> <li>・ジェスチャーでも伝えるって意外と難しい。</li> <li>○なかなか伝わらないけど言いたいことが伝わった時嬉しい。</li> </ul>	23	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価</p> <p>既習の英語表現や非言語情報を活用しながら、コミュニケーションをとることに慣れ親しむ。</p> </div>
終末				

2 子どもと題材（略）